

54 きたにし の く ぼ い せきしゅつ ど はにわ 北西ノ久保遺跡出土の埴輪



指 定 市有形文化財 昭和62年10月20日
所有者 佐 久 市

北西ノ久保遺跡は、岩村田地籍の湯川に臨む南北に延びる標高680m内外の細長い台地上に位置する。発掘調査は、昭和57年（1982）に信州短期大学の建設に伴い台地基部半域で行われた。その結果、弥生時代中期から平安時代の住居址や古墳及び弥生時代の方形周溝墓や木棺墓が発見された。

埴輪が大量に出土した第17号周湟（古墳の周りの溝）は、規模が南北23.9m、東西24.6mの円墳であり、埴輪は円筒・朝顔・形象埴輪が周湟内全域より出土したが、人物及び馬形埴輪は周湟北側より、まとめて検出され、古墳築造当時の埴輪配列が推定できた。

形象埴輪は、巫女・武人・鷹匠・農夫などの人物11点（女子像4・男子像4・不明3）、動物5点（飾り馬2・裸馬1・鹿1・鶏1）と器財10点（家1・太刀1・盾7・靴1）の26個体が確認されている。

これら埴輪の年代は6世紀後半と推定され、長野県内で形象埴輪がこれだけまとめて出土したのは当遺跡のみである。

形象埴輪	26点
円筒・朝顔形埴輪	57点